

【児童発達支援センター ひかりの家学園 事業報告】

児童発達支援の利用者は、44名であった。例年と同様、4クラス、異年齢のクラス編成をして一年間を過ごした。各クラス共に、平均的なクラスになるように組み立てを行った。運動機能に課題のあるお子さんが少なかったため、4クラス共に活動的なクラスとなった。年長児が多かったため、落ち着いた雰囲気の中、子どもたち同志の関係性を築きながら日々の保育を行うことができた。

保育主任と児童発達管理責任者を分けることにより、業務を分担して、より細かい支援をできるように職員配置を行った。日々の保育により、集団適応能力の向上及び社会性の構築を学び、個別の関わりにより生活力の基礎的な力の獲得を目指した。また、定期的な面談や個別支援計画の共有により、家庭との共通認識を図りながら、丁寧な発達支援及び家族支援を行っていった。職員も日々努力しながら適切な療育指導を行った。心理士、音楽療法士、作業療法士、看護師などの専門職も加わりながら、様々な側面から、専門的視点をいれつつ療育を進めることができた。公開保育を行い、日ごろの様子を見ていただき、保育施設職員等に特性のあるお子さんへの関わり方の助言などを行った。

年度当初は、コロナ感染症の対策を行っていたが、徐々に緩和していきながら日常生活を送った。給食はクラス毎とし、パーテーションは外して一人ひとりの顔が見える中で食事をとることができた。感染症等罹患者がいない時には、行事や活動など全員で行う事もできた。風邪の初期症状から受診をお願いすることや、服薬中は欠席をお願いすることなど、ウイルスが園内に持ち込まれないようにご家族に協力していただいた。行事については、大人数や密にならない工夫をし、子どもたちの成長発達や家族の子育て参加ができる機会を設けて実行した。また、年長児親子遠足として、保護者から希望のあった東京ディズニーランドを計画し楽しむことができた。コロナ禍は卒園式を二部制とし分かれて行ったが、今年度は全園児一斉に行うことができた。全園児と一緒に卒業したいとの保護者の希望に沿った形となり、式終了後は外の会場にて保護者会が企画した懇親会を行った。父親・母親親睦会を復活させ、保護者間がつながる機会を設けることができた。年間を通して保護者会活動も少しずつではあるが活発に行う事ができた。

年度当初から在籍数が多かったため、年間を通して待機児童がいる状況となった。入園を待つ間、月2回アネモネ親子教室を開き、親子で保育を感じられる時間を設け、利用するお子さんが多かった。そのため、入園前に保護者同士が知り合いになることや職員に育児やかかわり方、障害の相談をする機会にもなり、親御さんにとってもよい時間となった。

ひかりの家学園で過ごすことによって、一人一人の個性が尊重され、社会性や個人力が伸ばせるようにと願っている。

【児童発達支援センター 児童発達支援事業】

1. 定員30名

2. 園児

(1) 年齢（2024.3月末日現在）

年齢	2	3	4	5	6	計
男	0	1	2	13	16	32
女	0	0	2	5	5	12
計	0	1	4	18	21	44

(2) 在園期間

期間	6ヶ月未満	～1年	～2年	～3年	～4年	～5年	合計
男	1	7	14	6	4	0	32
女	0	5	5	2	0	0	12
計	1	12	19	8	4	0	44

(3) 入園者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入園	12	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	13
退園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
初日在籍	43	43	43	43	43	43	43	43	43	44	44	44	

(4) 入園時年齢

年齢	1	2	3	4	5	6	計
男	0	1	2	5	0	0	8
女	0	0	2	3	0	0	5
計	0	1	4	8	0	0	13

(5) 入退園前後の状況

入園前の状況	人数	退園後の状況	人数
在家庭	3	支援学校	8
保育園	9	福祉施設	0
児童発達		小学校（特別支援学級）	12
託児所		小学校（普通学級）	1
養護施設	1	幼稚園	0
		保育園	0
		支援学校幼稚部	
		永眠	
計	14	計	21

(6) 障害の状況 (含重複)

2023年度

知的障害 *1	最重度		
	重度		4
	中度		9
	軽度		5
			計 18
発達障害	広汎性発達障害	自閉症	14
		アスペルガー	
		特定不能の広汎性発達障害	2
		小児期崩壊障害	
		レット症候群	
	学習障害	読字障害	
		書字表出障害	
		算数障害	
	注意欠陥性・多動性障害	特定不能の学習障害	
		不注意優勢型	
		多動・衝動性優勢型	
	発達遅滞	混合型	1
		言語発達遅滞	8
		運動発達遅滞	2
精神発達遅滞		3	
特定不能な発達遅滞 *2			9
			計 39
身体障害	視覚障害		
	聴覚障害		
	肢体不自由	2	
	内部障害	2	
	重複障害	1	
			計 5
てんかん			2
			計 2
ダウン症			1
重症心身障害			
難病 *3			
未診断			1

総計 66

*1 知的障害の診断のある児のみ記載。

*2 発達遅滞の詳細が診断上不明なものを含む。

(7) 基本的生活の自立度

	①	②	③	④	⑤	計
食 事	自分で食べられないため食べさせてもらう	手づかみでは食べるが、スプーンは使えない	手づかみやスプーンで食べる	スプーンや握りばしで食べられる	はしを使って食べられる	
人数	3	7	9	23	2	44
排 泄	オムツを必要とする段階	大小便とも時間を決めてつれていく（失敗があってもよい）	大小便とも予告できる（時には失敗があってもよい）	大小便ともほぼ自立するが後処理不完全	大小便とも自立	
人数	12	7	6	9	10	44
着脱衣	すべて介助が必要	介助すれば協力しようとする	簡単なものは自分で脱げる	着脱はほぼできるがボタンかけ等は困難	着脱でき、ボタンかけ等も自分でできる	
人数	1	12	10	19	2	44
移 動	自分移動ほとんど不能。寝たきりの状態	何らかの自分移動可能	独歩不能なるもつたい歩き可（手をつなげば歩ける）	独歩なるも危なっかしい	歩行可能又は不自由さはあるが皆と同様に歩ける	
人数	0	1	3	12	28	44
言 語	話せない、相手のいうこともわからない	話すことは出来ないが相手のいうことはわかる	身振りや声で表現し伝えようとする	単語程度で意志交換不能	大抵のことは言葉で通じ合える	
人数	0	14	4	13	13	44
自己統制	全く指示の理解も出来ず従えない、危険もわからない	ある程度危険を避けられるが目を離すと不安なことが多い	繰り返し指示を与えれば何とか従える	ほぼ、指示や説明を理解し行動できる	自発性もありごく日常的な生活には対応できる	
人数	1	9	15	13	6	44
対人(物)関係	無関心、呼ばれても反応を示さない	呼ばれれば反応を示す、特定の人や物には一応関心が持てる	人や物に関心をもち表情や動作に表す	一方的ながら人や物に対して働きかけ、初歩的な関係がもてる	友達の世話をしたり協力して遊んだりもする	
人数	0	8	10	17	9	44

(8) 市町村別分布(2024. 3. 1在園児)

市 町 村		男	女	計
甲	府	4	1	5
中	央	5	2	7
葦	崎	1		1
南	アルプス	8	6	14
甲	斐			
笛	吹			
山	梨			
昭	和	2	1	3
南 巨 摩	富士川	4	1	5
	身延			
	早川			
	南部	1		1
西 八 代	上九一色			
	市川三郷	7	1	8
	下部			
合 計		32	12	44

(9) 市町村別分布累計(1977. 4. 1
~2024. 3. 31)

市 町 村			人 数
甲	府		56
中	央		76
葦	崎		16
南	アルプス		124
甲	斐		18
笛	吹		9
山	梨		1
昭	和		25
南 巨 摩	富	士川	51
	身	延	9
	早	川	2
	南	部	10
西 八 代	上	九一色	1
	市	川三郷	41
	下	部	1
合 計			440

3. 療育

- (1) 保育時間 ◇平日 午前8時30分 ~ 午後4時30分
 ◇土曜日 毎月第3土曜日 親子音楽療法
 在園時間10時00分~11時00分…1時間

- (2) 送迎車運行状況 週日2台運行 A:大型 B:大型〈白〉

A	あさ	!	かえり
7:55	園発	!	3:00 園発
8:15	サポート [®] 小笠原	!	3:15 サポート [®] 小笠原
8:35	サポート [®] 八田	!	3:30 サポート [®] 八田
9:05	セブンイレブン西南湖店	!	3:45 セブンイレブン開国橋西店
9:15	おかめ寿司	!	4:10 セブンイレブン西南湖店
9:25	園着	!	4:20 おかめ寿司
		!	4:30 園着
B		!	
7:50	園発	!	3:00 園発
8:05	豊富	!	(3:05 豊富)
8:15	上今井町	!	3:15 上今井町
8:25	大里 (coorer)	!	3:20 大里 (黒門)
8:30	中銀後屋支店	!	3:25 中銀後屋支店
8:35	セブンイレブン河西店	!	3:30 セブンイレブン河西店
8:40	ファミリーマート田富布施店	!	3:35 ファミリーマート田富布施店
9:50	園着	!	3:50 園着

(3) 内容

(イ) 園児が多人数のため、4クラスに分かれて日常生活・活動を行った。

(ロ) 身近自立に向けての指導は、個々のレベルにあわせてプログラム化し重点的な取り組みをした。

(ハ) 水泳療育は、甲西町のブルーアーススイミングクラブと専属契約し、4月より、3月まで通して週1回、1名のコーチの指導により充実した療育がなされた。

(ニ) 「生活指導」は、立位・歩行・発声・感触・リハビリ・着脱・排泄・集団等 個々の課題・興味を勘案した遊びの展開を試みた。

(ホ) 「クラス特別活動」は、日常生活で体験できないような社会経験・自然環境・特別プログラム等により調和のとれた心身の発達を目指した。

(クッキング・遊園地遊び・公園の散歩・買い物・等々)

(ヘ) 「個別支援計画書」を半年ごとに作成し、園で行われている療育を親御さんに書面で伝えている。親御さんの要望、希望を汲みとった内容も入り、共通理解、共に歩む姿勢がみられる計画をたてている。

(ト) 幼稚園とは合同礼拝、合同行事を通し交流の時を持っている。年中児、年長児を対象に個々の成長によるが、幼稚園で行われている絵画教室や英語教室にも参加。園庭遊び等を通して日常保育の中で自然な形での交流を重視し、「共に育つ」ことを目指しての積み上げをはかった。

(チ) 具体的な個別指導の向上を図るため、毎月1回心理の専門家、有賀文美先生に療育現場を指導していただいた。

(リ) 音楽療法は、松井紀和先生のご指導の下、講師金丸かおる先生により行った。毎週1回、個別指導を行い、月一回集団的指導がなされた。そのために様々な音色の楽器を用意し、有意義に展開することが出来た。

(ヌ) 「クラス活動」は、クラス費を設け、各クラス毎の目標、目的に沿った園外活動が行われている。一人一人のペースに合ったより細かい体験が行われている。(電車、お買い物、食体験、動物園、公園など)

(ル) 安藤峯子先生の指導のもと全園児で50周年記念絵画を制作する。絵画は山梨県立美術館で開催された「アトリエポシエット」にも展示された。その後50周年を祝う会で展示された。

4. 行事等

1年間の行政等を列挙すると以下のようであった。

月	行事等	その他
4月	3日 始業式 5日 入園式 14日 イースター礼拝 15日 親子MT(ひばり・ひつじ) 24日～28日 家庭訪問 25日 避難訓練 26日 誕生会	14日 職員会議 19日 合同職員会議 20日 有賀先生来園
5月	17日 年長児就学説明会 18日 避難訓練 20日 親子MT・花植え(つくし・めだか) 24日 花の日礼拝 27日 保護者清掃 29日 誕生会	2日 保護者総会 10日 虐待研修 16日 内科健診 17日 就学説明会 22、30日 新入園児ケース検討会 23日 歯科検診 26日 職員会議 31日 検便検尿
6月	19日 合同避難訓練 29日 誕生会	5日 新入園児ケース検討会 16日 職員会議 22日 検便検尿(2次) 23日 有賀先生来園 29日 救急法研修
7月	6日 親子遠足 10日 避難訓練 15日 親子MT・花植え(ひばり・ひつじ) 19日 誕生会	11日 検便検尿(3次) 19日 卒園児父母おはなし会 20日 有賀先生来園、公開保育 28日 職員会議 31日 感染症研修
8月	2、3日 保育参加 10日 1学期終業日 17日 始業式 19日 親子MT(つくし・めだか) ダイナイトレク 22日 避難訓練 29日 誕生会	10日 リーダー会議 17日 職員会議 19日 年長児遠足説明会 23日 有賀先生来園

9月	1日 合同避難訓練 4日～8日 個人面談 13日、14日 敬老会 16日 親子MT(ひつじ・ひばり) 19日 誕生会 22日 年長児親子遠足	15日 職員会議 19日 摂食 25日 有賀先生来園
10月	14日 運動会 20日 避難訓練 31日 誕生会	19日 検便検尿(1次)、有賀先生来園 20日 職員会議
11月	4日 50周年記念 10日 秋の遠足 14日 幼児祝福式 16日、17日 収穫感謝 18日 親子MT(つくし・めだか) 27日 誕生会、避難訓練	9日 検便検尿(2次) 13日 内科健診 17日 有賀先生来園 21日 摂食 24日 職員会議
12月	6、7日 クッキー作り 12日～14日 総練習 16日 クリスマス礼拝 19、20、21、22日 個人面談 20日 避難訓練 25日 誕生会 27日 終業式	21日 有賀先生来園 27日 職員会議
1月	5日 始業式 20日 お正月あそび 親子MT(ひばり・ひつじ) 29日 誕生会 31日 避難訓練、消火訓練	17日 有賀先生来園 26日 職員会議 30日 歯科検診 31日 保護者総会
2月	7、8、9日 保育参加 19日 避難訓練 20日 誕生会	1日 感染症勉強会 8、15、26日 入園説明会・有賀先生来園 27日 職員会議
3月	6日 誕生会 8日 お別れ遠足 9日 親子MT(つくし・めだか) 12日 避難訓練 19日 お別れの会 20日 卒園式 25日 終業式	4、8、13、15日 ケース検討会 11、13日 有賀先生来園 25日 職員会議

- ☆音楽療法は、毎週木曜日
- ☆スイミングは毎週月曜日

2023年度実習生受入れ

4 / 13 ~	山梨学院短大専攻科インターンシップ	2名
6 / 11 ~ 6 / 23	大原簿記情報ビジネス医療福祉保育専門学校	1名
6 / 26 ~ 7 / 10	大原簿記情報ビジネス医療福祉保育専門学校	1名
8 / 17 ~ 9 / 1	学院短大	3名
9 / 6 ~ 9 / 22	学院短大	3名
	計	10名

5. 地域との関わり

- (1) 松井紀和先生の「発達相談会」は行わなかった。
- (2) 毎月2回、南部町つくしんぼ教室、毎月1回富士川町のびっこ教室に参加し、地域の障害児の保育にあたった。
- (3) 対象地域町村の保健婦と福祉担当者を1月に訪問し、学園への協力を要請すると共に、障害児の存在等の実情把握に努めた。
- (4) ボランティアによる園児への関わりをもってもらった。
- (5) 実習生は、山梨学院短大専攻科よりインターンシップ2名、山梨学院短期大学より6名、大原簿記情報ビジネス医療福祉保育専門学校より2名を受け入れた。
- (6) ひかりの保育、療育を地域の保育者にむけて公開する公開保育を開催する。意見交換で悩みを相談、情報を共有するなど有意義な時間を過ごすことが出来た。

【児童発達支援センター 放課後等デイサービス事業】

1. 定員10名

2. 学年

学 年	1	2	3	4	5	6	その他	計
放課後	2	5	4	7	5	3	3 (中学生)	29
音楽療法	0	2	2	2	0	2	0	8
計	2	7	6	9	5	5	3	37

3. 地域

	市川 三郷町	富士川 町	南部 町	南ア 市	中央 市	身延 町	甲府 市	甲斐 市	計
放 課 後	3	1	2	5	1	6	1	1	29
音楽療 法	1	2	0	3	0	1	1	0	8
計	4	12	2	8	1	7	2	1	37

4. 利用状況

放課後等デイサービスは、峡南地域に在住の児童を中心としたデイサービスであるが、峡南地域以外からの利用も可能。送迎は峡南地域のみであるが、利用者も多く放課後の平均は9名であった。長期休みは定員を満すことも多く、賑やかに過ごしている。利用者の多くはひかりの家の卒園児である。それぞれの児の課題に対して試行錯誤しながら取り組み、家庭や学校とも情報交換を行いながら取り組んでいる。

音楽療法についてはデイ利用者のみ。感染症対策として、参加人数を事前に把握するために電話で参加の有無を確認した。毎回同じ児童が利用している状況。

【児童発達支援センター 保育所等訪問支援事業 幼児期】

1. 年齢

	年長	年中	年少	未満児	合計
男	7	5	0	1	13
女	2	0	0	0	2

2. 地域

市川三郷町内 幼稚園、保育所	南ア市内 幼稚園、保育所	中央市内 幼稚園	富士川町内 幼稚園	身延町内 保育所
0名	10名	1名	1名	1名

甲府市内 幼稚園	甲斐市内 保育園
1名	1名

3. 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約数	9	10	10	11	13	14	14	15	15	15	15	15	156
訪問数	9	13	15	13	13	16	17	16	13	17	15	15	172

昨年度からの継続が6ケースあり、徐々に新規の契約が増えていった。

訪問支援から本園への併行通園や転園につながったケースが4ケースあった。その際には保護者の相談にのりながら、児にとってより良い選択が出来るように努めていった。

支援計画書を作成するときには、スモールステップで着実に成長を感じることが出来るように、そして先生方が集団の中で無理なく出来る目標を設定していった。園の先生方の漠然とした困り感が、訪問支援で目標が明確になって良かったとの声が聞かれた。

訪問後には保護者に観察の様子や先生方とのお話の内容を報告することで、園での様子を知ることが出来て嬉しい、先生方がどのように関わってくれてい

るのか知れて良かったとの声が聞かれた。

園と家庭で考えが食い違ってしまうケースが多くあった（もっと支援してほしい保護者に対して、園の方針や体制により支援が出来ていない園。訪問支援につながったものの保護者の困り感が低く、保護者に対してもっと理解を求めている園など）。支援員が間に入り、双方に寄り添いながら丁寧に対応していた。必要な時には相談専門員に相談していった。

年長児や、本園へ転園のケースが多くあり、3月で終結となるケースが13ケースあった。そのうち4ケースは学齢期へ継続となった。

【保育所等訪問支援事業 学齢期】 令和 2023 年度

1、学年

	小学1年生	2年生	3年生	4年生以上	中学生以上	合計
男子	0	10	4	6	0	20
女子	1	0	1	1	0	3

2、地域

甲斐市	南アルプス	富士川町	笛吹市	中央市	甲府市	身延町	南部町
1	7	5	0	4	2	3	1

3、利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約数	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	
訪問回数	0	14	11	13	0	6	13	10	5	5	16	2	95

・訪問支援が初めて入る学校には、事前に管理職を含めた関係する先生方に訪問支援についての共通理解を図り児童についての情報交換などを行うことでスムーズにすすめることができた。

・1回の訪問では行動観察（1~2時間ほど）と先生との面談を行い、保護者に様子を報告した。先生との面談では、児童の捉え方を共通理解して児童の発達にとって何が大事かという大きな方向性を常に確認し、具体的な支援を一緒に考えるようにした。観察された様子を保護者に報告することで、学校での様子が分かってうれしいという保護者の声が度々聞かれた。保護者からも家庭での様子をうかがい、児童の状況についての捉え方や支援の方向を一緒に考えるようにした。中立的な立ち位置で、児童理解を中心に保護者と先生とが良い関係を築いて一緒に支援を考えて行かれるように努めた。

・児童の捉え方や支援の方向について保護者と先生、訪問支援員での共通理解が難しいケースがあり、相談支援専門員や関係者会議等で連携を図りながら対応した。

・小1から続けている児童では高学年になり一段と成長を見せる児童もいて、保護者や先生と成長を共有しながら良い関係の支援ができた。

・訪問支援員の打ち合わせを毎月行い、情報交換し支援について迷う事例に関しては意見交換して個々の支援にあたることができた。

【アネモネおやこルーム】

利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数	4	15	13	11	6	15	17	12	7	15	6	6	127
回数	1	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	2	21

活動内容

	活動内容			活動内容	
4月	20	外あそび	10月	4	ミニ運動会に向けて
				18	ミニ運動会
5月	10	外あそび	11月	8	園外活動（やまなみ公園）
	31	外あそび		22	外あそび
6月	14	音楽あそび	12月	8	中止
	28	園外活動（歌舞伎公園）		20	クリスマス会
7月	5	プールあそび	1月	10	凧あげ・外あそび
	28	運動あそび（if会館）		24	運動あそび
8月	9	外あそび	2月	14	中止
	23	プールあそび		21	おやつ作り
9月	6	外あそび	3月	8	散歩
	20	外あそび		18	たまほふれあい広場

アネモネおやこルームは、今年で10年目を迎える事業である。対象は1～6歳までの子育てや発達に心配なお子さん、お母さんのためのおやこルームであり、月に2回開催している。

アネモネおやこルームから、「ひかりの家学園」の入園につながるお子さんも多く、今年度は9名のお子さんが入園している。

元気いっぱいな子どもたちは外で遊び回ることが大好きだ。季節を体で感じる事が出来る外遊び中心にプログラムを組んでいる。

今年も笑顔あふれる子育てのお手伝い出来るよう、どんな家庭にも寄り添ったアネモネおやこルームを目指していく。

【相談支援事業所ムーミン】

令和5年度 相談支援事業（「ムーミン」）報告

表1 令和5年度月別契約数、計画・モニタリング作成数 (年度末)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	4年度末
新規契約数	0	0	1	0	0	0	0	1	4	4	5	0	14	17
契約終了数	0	5	2	1	1	2	2	1	1	4	0	8	27	16
月末契約総数	111	106	105	104	103	101	99	99	101	101	106	98		111
計画作成数	2	9	4	8	8	10	8	13	10	8	6	33	119	126
モニタ作成数	30	37	29	18	20	31	13	22	15	20	12	49	296	335

表2 地域・市町別契約数

地域・市町村名	契約数
峡南地域	37
市川三郷町	10
富士川町	18
身延町	6
早川町	0
南部町	4
甲府市	10
南アルプス市	32
中央市	11
昭和町	2
甲斐市	2
韮崎市	1
笛吹市	3
計	98

表3 年齢年代別

R5.4.1

未満児	2
年少	7
年中	6
年長	20
小学生	54
中学生	9
高校生	0
その他	0
計	98

表4

サービス内容

児童発達支援	34	36
保育所等訪問支援	23	34
放課後等デイサービス	60	59

表2・3・4は、令和6年4月1日現在

平成26年1月1日「指定障害児相談支援事業」指定（再令和2年1月1日～）

平成26年9月1日「指定特定相談支援事業」指定(対象が「児童」から「児童・成人」に)

平成30年4月1日規程一部改訂（相談員兼務1名増）

令和1年6月1日、「指定特定相談支援事業」終了、(対象は「児童・成人」から「児童」のみに)

令和2年4月1日、事務員配置

令和4年4月1日、相談員兼務1名増

令和5年度実績

(1) 令和5年度は、当初111件の契約件数から始まり、年度末は98件で終わった。

(新規契約が14

件、契約終了が27件で13件減) 他事業所への移管が多かった。(前年度は

1件増) (表1)

- (2) 地域的には峡南地域が 37 件 (前年 39 件) (市川三郷が 10 件、富士川が 18 件、身延が 6 件、南部 3 件である)、他の地域では、南アルプス市が 32 件(前年 35 件)、甲府市が 10 件(6 件減)、中央市が 11 件(2 件減)と続いている。
- (3) 年齢別では、小学生 54 件(9 件減)、未就学児が 35 件(6 件減)、当所以外の相談支援事業所も増えている。中学生 9 件(2 件増)である。小・中学生は、放課後等デイサービスを希望しての契約が主で卒園児が就学と同時に利用するケースが多い。また、就学後も保育所等訪問支援を継続して利用するケースもある。
- (4) 計画書及びモニタリング(継続支援計画)の作成数については、表 1 のとおりであった。
- ・計画作成日は支給開始日としているので、月初日付のものはその前月までに家庭訪問等による聞き取りを実施し、「計画案」を市町村に提出している。(新規、更新とも)
 - ・更新ケースについては、「計画案」と共にモニタリングを提出している。このときのモニタリング結果と計画案は計画書の根拠となるもので単独での支給(障害児相談支援給付)はない。計画書及び単独のモニタリング提出時のみ(契約終了時は支給)支給される。
- *サービスの支給期限は誕生日月までとしているが、児童発達支援を受給している年長児については 3 月末で終了し、就学と同時にデイを利用する場合など新たに次月の 4 月 1 日より誕生日月までの計画を立てることになっている。また、年度当初よりの入園希望ケースや就学児の多くが 4 月 1 日付になるので、年度末及び年度当初の処理件数が毎年のことながら多くなっている。
- *5 年度は、新規契約が 14 件あり、他の事業所への移管等で 27 件が契約を終了した(13 件減)。

今後の課題と対応

○令和 5 年度は地元市町村や保護者の協力で他の相談支援事業所への移管ケースが増え、年度末には前年度比 13 件減であった。今後も職員数に合わせた件数にとどめるためには保護者や、市町村、基幹相談支援センターの協力が必要になってくる。また就労や社会生活に向けての準備が始まる人(中・高校生)には当所での対応は困難が予想されるため、卒園後は出来るだけ早く地元の成人も対象としている事業所に移管していく必要があるのだが、市町村によってその協力程度はまちまちであり、当所からの働きかけも多く必要になって来ると思われる。

- ・対応①兼務職員一人当たりの担当件数には限度があり、今後も常勤職員や 0.5 換算の兼務職員の確保が必要になってくると思われる。
- ・対応②今後も峡南地域以外のケースについては、地元事業所への移管を進めていくことがなお必要である(峡南については、中学 3 年生の誕生日月に峡南広域相談支援センターに移管している)。そのためには保護者の理解と、地元相談機関との連絡調整が今まで以上に必要になる。

○今後も相談支援事業を継続していくためには、事業及びサービス内容の充実を図るべく検討し、計画・実践していく必要がある。

・対応① 今後も職員配置を計画的に行う（資格取得も含めて）とともに、運営規程等の見直しなども必要になってくると思われる。

（法人内の担当それぞれの連携による支援が必要になる。）

・対応② 相談員の所内・外研修、情報交換と共に法人内職員への研修も必要になってくる。